

## 点検ケーススタディー

# いってきまーすの、 その前に！ (バッテリー/冷却水編)

車両トラブルを防ぐために、定期的な点検・整備は基本です。今回は、寒い時期に起こりやすく、エンジンの始動に関わる「バッテリートラブル」とオーバーヒートにつながりかねない「冷却水不足」について、それぞれの防止方法を紹介しします。

### バッテリー

こんなとき

エンジン始動時、  
「スターターが回りにくい(弱い)」

もしかすると・・・

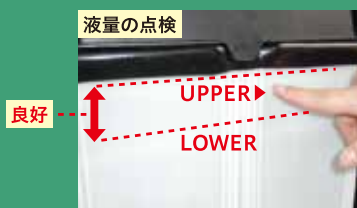
- バッテリー液が不足している

そのままにしておく・・・

- エンジンがかからなくなる
- バッテリーの劣化が早まる

### 「バッテリー液」確認のポイント

- バッテリーカバーを外し、バッテリーケース内の液面が適正範囲内にあるかを点検。
- 液面がケース側面の「UPPER」と「LOWER」の線の間にあれば良好。
- 「LOWER」の線より下の場合、補充液または蒸留水を補給。



\*補給後は、必ず充電(走行)をしてください。寒い時期はバッテリー液が凍結し、バッテリーケースが破損する恐れがあります。  
\*バッテリー液を身体や衣服に付けないよう十分に注意。もしバッテリー液が付いた時は直ちに水洗後、石けんで洗い流してください。

### 冷却水

こんなとき

車両の下の地面が、  
「濡れている」「水たまりがある」

もしかすると・・・

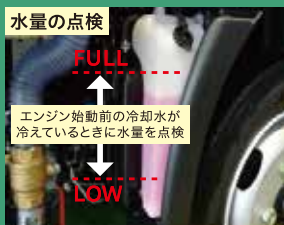
- 冷却水が漏れている

そのままにしておく・・・

- オーバーヒートを起こし、  
エンジンに深刻なダメージを  
与える

### 「冷却水」確認のポイント

- 点検はエンジン始動前の冷却水が冷えている時に実施。
- リザーブタンク内の水量が規定の範囲内にあるかを点検。
- 「FULL」と「LOW」の線の間にあれば良好。
- 「LOW」より下の場合は、「FULL」の線まで補給。



\*高温時は絶対にラジエーターキャップを外さないでください。熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをする恐れがあり危険です。